国際委員会アジア学術会議分科会（第22期・第1回）議事要旨

１．日　時　　平成23年10月14日（金）15:00～17:00

２．場　所　　5-A(1)会議室（5階）

３．出席者　　春日委員、白田委員、生源寺委員、黒田委員
（欠席：川本委員、野口委員、吉野委員）
（事務局）飯島次長、渡部参事官 他

４．議　題
（１）分科会委員長及び副委員長の選出
（２）アジア学術会議（SCA）について
（３）第22期への申し送り事項について
（４）アジア学術会議事務局長の推薦について
（５）第12回アジア学術会議について
（６）その他

５．議事要旨
（１）委員長及び副委員長の選出
委員長に白田委員を、副委員長に生源寺委員をそれぞれ選出することで分科会の承認が得られた。

（２）アジア学術会議（以下「SCA」という。）について
事務局から、SCAの概要（発足の経緯、活動の目的）、共同プロジェクトの実績、第11回モンゴル会合における定款及び細則の変更（総会については隔年の開催に変更）、今後の開催国及びOfficerの分担、SCA事務局長については引き続き日本学術会議から出すこと等について説明。

（３）第22期への申し送り事項について
事務局から、第22期への申し送り事項に関し、分科会及び小分科会の構成と進め方、SCAの活動の活性化（SATREPSの活用やJICAとの連携）等について説明。
本議題に関しての主な発言は以下のとおり。
【白田委員長】
・ アジア学術会議分科会においては、これからのアジア全体における学術戦略、学術協力をどのように推進するかを議論していくこととなる。
・ 引き続き、SCAの会員国を増やす活動を進めたい。ブータン、スリランカ等を訪問し、SCAの趣旨や活動内容を説明し、オブザーブ参加を呼びかけてきた。
・ インセンティブを持ってSACに参加してもらうため、各国訪問時にSATREPSを紹

介。これは、現地の個別のリサーチャーと日本の研究者が組んで申請するタイプのプロジェクトであり、かなり大きな資金が得られるスキームである。

- アジア各国に興味を持たせる契機として、SATREPS のスキームを活用し資金を得て、研究成果を JICA などの案件に結び付け、各国の開発援助に役立つということを理解いただいた結果として、SCA の会合にオブザーブ参加をしてくれるようになってきた。
- アジア各国訪問時には、SCA という機会を科学者同士の意見交換の場として利用して欲しいと話している。
- JICA に SATREPS の申請を行う際、日本の研究者と組まないと申請できないが、そのあてがない。現地は JICA に相談してくるが、JICA は情報やルートを持っていない。是非、SCJ の情報を流していただくとともに、アジアでのプロジェクトに関わった経験を有する科学者のデータベースを構築し、適合する研究者とのマッチングを行い、研究者を結びつける仕組み作りを進めていきたい。
- 加盟国の中には、資金を提供するからと言ってイニシアチブを取りたがる国がある。未加盟の国もあることから、まずは共同体を作り上げてから、ということでコントロールしていきたいと考えている。

（４）SCA 事務局長の推薦について

- 事務局より、SCA 事務局長の就任に関する過去の経緯、及び前期においては村岡 SCA 分科会委員長が SCA 事務局長を兼務していたことを説明。
- 第 22 期においてもその流れを踏襲することが自然である旨の意見が生源寺委員から出され、<u>SCA 事務局長に白田 SCA 分科会委員長を推薦することについて分科会の承認が得られた。</u>

（５）第 12 回アジア学術会議について

- 事務局より、2012 年に開催される第 12 回 SCA の概要を説明。また、本年 11 月 13 日から 15 日に事前調査を実施し、翌年度の会合に向けてのインドネシア側との打ち合わせ、会場、宿泊施設の状況の確認を行う予定である旨説明。さらに、今年度末に予定している第２回目の事前調査については、改めて先生方の派遣の人選も含めお諮りしながら進めていくこととなる旨説明。
- <u>第 12 回 SCA に係る１回目の事前調査については、上記日程により白田委員長が派遣されることで分科会の了承が得られた。</u>

（６）その他

① 小分科会の設置について

本議題に関しての主な発言は以下のとおり。

【春日委員】

・ 資料４に沿ってウブントゥ宣言の概要について御発言。
・ その趣旨は､持続可能な開発のために科学技術教育をどのように評価していくか、ということについてイニシアチブを取っていこうというもの。世界各地の中小規模の街に、産・官・市民・学の４者が一体となって活動していく拠点（RCE）が設置され、各地の活動を事務局（国連大学高等研究所）が審査し、活動の結果をフォローアップし、最後に 10 機関がレビューするという形態をとっている。
・ RCE の会合には日本学術会議から SCA の代表として参加。一方、審査委員会の委員には個人としての立場で参加。審査委員については SCA としてオフィシャルに受けるものではなく､どうしても続けなければならないという背景はない｡但し、SCA としてはウブントゥ宣言に署名していることから、毎年の年次会合には誰かが出る必要があるので、それを担当していただくのがウブントゥ連合小分科会となる。ウブントゥへの代表者の派遣と審査委員会への参画は別の話である。
・ SCA の代表という立場でウブントゥへの参加は継続する一方、審査委員会への対応を御検討いただくために、小分科会を立ち上げる必要がある。但し、その立ち上げについては、そこまで急ぐ必要はないものと思われる。

第 12 回 SCA 会合担当小分科会については、その構成員はメール等により分科会の先生方から御推薦いただき、テーマに沿った先生方に御参加を得て、プログラムを取りまとめていただいくため早期に立ち上げることで分科会の承認が得られた。

ウブントゥ連合小分科会については、本日は欠席者が多いことから、今後、メール審議により構成員の選出を行い、追って小分科会を立ち上げることで分科会の承認が得られた。

② スリランカからの invitation について

スリランカの Association for the Advancement of Science の年次総会への招へいについて、春日国際委員会委員長が出席される方向で今後調整することで分科会の承認が得られた。